

2年生

教科	成果	課題	重点取り組み
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に音読に取り組むことで、言葉に着目して内容の大体を読み取る力が付いてきた。 ・読書が好きな児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎組み立てを考えて文章を書くことや、句読点などの書くときのきまりが定着していないこと。 ・漢字の読み書きは個人差が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・書きたいことを見付ける時間、メモにする時間、メモをもとに書く時間など、丁寧な時間設定をして取り組むようにする。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な計算技能は、ほとんどの児童が身に付けられている。 ・自分の考えをノートに書くことができるようになった児童が多く、すすんで挙手をする児童が増えてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題を早く終えようとして、確認が不十分などところがある。 ◎自分の考えの根拠となる理由に数や量の感覚的な発想をもたせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えの理由を、問題の中の言葉から見付けたり、図にして表したりすることができるように、ノート指導を行う。
生活	<ul style="list-style-type: none"> ・廃材から、様々なおもちゃを楽しんで作ることが多く、友だちの作品のよさを見付けられたり、よりよい物へと改良したりとすすんで活動していた。 ・花や野菜の栽培、生き物などを大切に育てたいという思いをもつことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎「作り方を教えてほしい」など、すぐに答えを求めてしまうこともあるため、自分なりに物の機能を理解しながら工夫する楽しさをもたせる。 ・育てている花や野菜の栽培、生き物などに対して自分の思いを自由に表現したり、気付きを深めたりすること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の目的を全員が明確にもつことができるように、導入時に丁寧に説明する。また、活動に対する意欲を高めるために、児童の思いや願いが生きる場面を各単元の中に取り入れるなどの工夫をする。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と一緒に歌ったり体を動かしたりして、楽しさを感じながら音楽活動ができる児童が多く見られる。 ・リズムや拍の流れを感じたりすることができるようになってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎周りの音に合わせて演奏したり、拍の流れにのって演奏したりすること。 ・曲を聴いて感じたことを、言語で表現することが苦手な児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・拍子についての学習を徹底し、体を動かすことで拍感を身に付ける。また、合奏するときは、ピアノや打楽器の音に合わせて音を出す練習を重点的に行う。

<h1>図工</h1>	<ul style="list-style-type: none"> ・材料や環境から発想を豊かに広げて、楽しく制作活動や造形遊びに取り組める児童が多い。 ・作品を見合うことを楽しみ、友達の作品の良さや面白さに気付く児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎絵の具やはさみ等の使用の基本について、さらなる定着を図り、全員が安全に活動できること。 ・自分の思いを形にするためにどのように表現するのかを思い付く力を付けること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・絵の具セットの置き方や筆洗・パレットの使い方、着彩の筆の使い方などが分かりやすいように、視覚的に学べる機会を多くし反芻する。 刃物類は特に、学習前に持ち方や使用上のルールを確認する。
<h1>体育</h1>	<ul style="list-style-type: none"> ・体を動かすことを楽しんで取り組むことができている。 ・体づくり運動では、バランスをとる運動あそび、用具を操作する運動あそびなど、様々な動き遊びを身に付けることができている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動経験に差がある。 ◎友達が工夫したところや良いと思ったところを見付け、表現すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習カードに自分や友達のよさを記入する欄を設け、記入させる。また、授業の中で運動を見せ合う場を作り、互いのよさに気付かせるようにする。